

カーナビが登場してから、どのくらいになるだろうか。すっかり当たり前になった。おかげで、目的地に確実に到着できるようになり、非常に便利になった。だが、カーナビがなかった時代に鍛えられた野生の土地勘は、すっかり失われてしまった。便利な文明の利器は諸刃の剣でもある。

カーナビがなかった頃は、よく地図を見た。私が運転し、助手席の家人が地図を見る。信号機で止まると、私も地図を見る。そして、判断をする。地図に載っている道路は大丈夫だろうと、近道にチャレンジした結果、大変な状況に追い込まれたこともある。

地図を見ながらも、当てになるのは、自分の土地勘である。イタリアにいるときに、この能力は遺憾なく発揮された。カーナビなどまだない時代である。頼れるのは、イタリアの地図である。もちろんイタリア語である。宿泊場所であるホテルに何度も車で向かったことがある。ほとんど迷ったことがない。勘が冴えわたる。きっと、追い込まれた状況だからである。住んでいるとはいえ、異国の地である。妻と幼い子どもがいる。守らなければならない。何とかしなければならない。かえって、日本に戻ってからのの方が苦勞している。目的地にたどり着けないことがある。不思議である。

10年ほど前に、家族で再びイタリアの地に降り立った。空港で、すぐにレンタカーを借りた。エンジンのかけ方がわからない。ここで、あの能力が蘇ってきた。どうにかエンジンはかかった。カーナビがついている。英語表示もイタリア語表示もある。どちらにするか迷った。まだ英語の方がわかるだろうと判断した。日本のカーナビでさえ使い方がよくわからないのに、イタリアのカーナビなど使えるのかと大いなる不安を抱いた。だが、追い込まれると、不思議な能力が発揮される。火事場のばか力のようなものなのだろうか。

目的地のホテルを設定して、左ハンドル、右車線でGOとなった。少し走ると、何となく感覚が戻ってきたような気がした。体が覚えているということだろうか。一応、ナビに従ったが、空港からローマ中心部までのルートを頭が体が覚えていた。

目的地のホテルに着いた。問題は駐車場である。フロントで説明を受けた。どうやら、かなりタイトな道を行かなければならないようである。曲がるころには、リストランテ（レストラン）があった。かなり狭い。下手をすると、店の看板にぶつかりそうである。慎重に慎重に車を進めた。店のスタッフが見かねて、外に出て見守ってくれた。どうにか無事に無傷で車は所定の場所に収まった。

その後も、すべて車でイタリア国内を移動した。以前イタリアで愛用していた地図を持っていった。これが正解だった。カーナビよりも役に立った。カーナビだと、どうしても頼ってしまう。思考が働かなくなる。地図だと、勘が働き、記憶のスイッチも押される。

若い頃は、どの道に行くかで、地図を見ながら家人と陰悪なムードになったことがあった。日本の話である。それが、異国の地イタリアだと、そんなことにもならない。「こっちだったような」で大抵当たっている。

カーナビは便利だし、手放すことはないだろう。とはいえ、不満はある。目的地に近づいて案内を終了し、我々を見放すのではなく、駐車場まで連れて行ってほしい。それから、我が家の住所をセットすると、家の裏側に案内してしまう。そこからは玄関にたどり着けない。先日も、タクシーを頼んだら、玄関の前でUターンして、裏側に行ってしまったのである。これでは困る。